

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol. 2

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐ web サイトです。

特集

LGBTのTはトランスジェンダーのT

LGBTについて子どもたちにも理解を促す児童書が刊行されている昨今です。海外の児童文学作品にはLGBTの子どもを主人公にした物語も数多くあります。中でもLGBTのTであるトランスジェンダーを題材にした作品は多く、読み比べることでさらにその深淵を体感できます。トランスジェンダーは自分の**身体の性別に違和感を覚えている**人たちです。女の子が男の子になりました。男の子が女の子になりました。その性別が間違っていたという認識で、その逆のケースもあります。ただそれを人に知られることを子どもたちはとても怖れています。好奇の目に晒され、偏見に傷つけられてしまふからです。自ずと彼らは**秘密を隠し持ったまま学校生活を送る**こととなります。両親の理解さえ得られず孤軍奮闘する子どもたち。この題材だからこそ描くことができる**瑞々しい心のドラマ**が、児童文学作品としてここに結実しています。



ぼくがスカートをはく日

Gracefully Grayson.

作者 エレン・クライジス
 翻訳者 橋本恵
 出版社 学研プラス
 発行 2018年08月
 ISBN 978-4052046841



「ぼくがスカートをはく日」の主人公、グレイソンの**身体は男の子だけれど心は女の子**。古着屋で服を選ぶ際にスカートを試着したいという思いにかられながらも我慢しているのは、人から気持ち悪いと思われたくないから。そんなグレイソンの転機は、学校の劇のオーディションに出たことでした。グレイソンがやりたい役としてヒロインの名前を口にした時、世界は変わりはじめます。そのカミングアウトは好意的ではない反響も得ることにもなります。本當の気持ちを伝えるには勇気が必要で、リスクは大きく、代償を支払うことにもなりかねません。それでも**誰かと気持ちを分かち合い、手を繋げる**かも知れない。孤独に沈むグレイソンの静謐な心のうちの描き方など、繊細な表現にも息を呑みます。舞台で女神ペルセポネを演じるグレイソンの優雅な立ち居振る舞いも目に浮かんできます。



パンツ・プロジェクト

THE PANTS PROJECT.

作者 キャット・クラーク
 翻訳者 三辺律子
 出版社 あすなろ書房
 発行 2017年10月
 ISBN 978-4751528723



「パンツ・プロジェクト」の主人公、リヴの**身体は女の子だけれど心は男の子**。中学校に進学したリヴを悩ませているのは厳格な服装規定です。スカートを履く自分には違和感を感じない。なんとかスカートから解放されたいと思ひ、リヴは校長先生に直談判したり、署名運動を展開するものの上手いきません。リヴは気持ちを理解してくれる友人と家族に支えてもらっていました。しかし、父親がおらず母親が二人いるイヴの家庭を「気持ち悪い」と蔑んで、意地悪をする同級生もいます。二人の母親のことを大好きなイヴも、そうした「世間の目」を意識して身動きが取れなくなることもあります。**自分が大切にしているものを守る**ためにはどうやって戦えばいいのかわからない。視線に左右されず自分のスタイルを貫くこと。イヴが決める覚悟を瞳目にこぼしてください。



変化球男子

The Other Boy.

作者 M・G・ヘネシー
 翻訳者 杉田七重
 出版社 鈴木出版
 発行 2018年10月
 ISBN 978-4790233435



QRコードを読み込むとサイトのレビューを参照できます。

「変化球男子」の主人公、シェーンの**身体は女の子だけれど心は男の子**。二年前の転校を機に、新しい学校では男子として振舞っていました。野球チームのエースピッチャーで短髪のシェーンは女子だとは気づかれず、男の子たちと荒っぽくつきあったり、女の子を好きになったりと普通の少年のように過ごしています。それでも十二歳の身体にはいやおうなく変化が起きていました。女子としての成長を抑えるだけでなく、積極的に男子化する薬物を投与すれば、もう後戻りはできません。決断を迫られる中、以前の学校でシェーンが女子であったことを知る人物が、悪意をもって、その「正体」を吹聴しはじめます。次第に学校での居場所を失っていくシェーン。いやがらせをされたり、友人も離れていくピンチを「変化球男子」がどう切り抜けていくのかが見どころです。



ジョージと秘密のメリッサ

GEORGE.

作者 アレックス・ジーノ
 翻訳者 島村浩子
 出版社 偕成社
 発行 2016年12月
 ISBN 978-4037268800



「ジョージと秘密のメリッサ」の主人公、ジョージの**身体は男の子だけれど心は女の子**。ガールズ向けの雑誌を集めて、お化粧やヘアスタイルの記事を読んだり、写真の中の水着の女の子たちに自分もつけこめるのに、なんて想像をしています。メリッサというのはジョージが自分につけた女の子としての名前です。隠れてママのドレスを着たり、化粧道具をいじっている息子をママも理解したいと思ひながらも、やはり越えられない壁があります。女の子になるための手術や治療には親の同意が必要であり、ジョージはママを説得しようと作戦を執行します。ジョージが初めて女の子の格好をして街に出る場面の胸の高鳴りなど、ときめく気持ち活き活きと表現されています。すべてを理解することは難しくても、**ここにある欲びには気持ちよく惹き寄せられるはず**です。

ドレスを着た男子

The boy in the dress.

作者 デイヴィッド・ウォリアムズ
 翻訳者 鹿田昌美
 出版社 福音館書店
 発行 2012年05月
 ISBN 978-4834026825



トランスジェンダーではなくても、**ドレスを着たい男子**もいます。その「違い」にも注目ください。ユーモラスでちよっと切なくいらしい物語です。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.2

2019年7月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト「ハコブネ×ブックス」(非営利)を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作、受賞。



Twitter 連携しています。

@tomoostretch